一宮市国際交流協会ニュース第61号　２０１２．７

かけはし

iia
ichinomiya
international
association

国際交流ウエルカムサロンが、毎月３回一宮市本町４丁目で開催されています。気軽に一宮市民と外国人が情報交流できるようにと開かれています。会場ではいろいろな言葉が話され、電子辞書などを使いながら、若い人たちが外国の人たちと文化交流を楽しんでいます。雰囲気はちょっとインターナショナル。

国際交流ウエルカムサロン

本町にOPEN!

日本人と外国人が、気軽に話し合ったり相談することができるスペースが“国際交流ウエルカムサロン”です。今年から一宮本町のカフェで、第1～3日曜日の午後1:30～4:00無料で開催しています。

そこがどんなスペースか、興味津々ちょっとのぞいてみました。ホームステイをしてみたくて情報を聞きに来られた方。民俗舞踊で国際交流をしてみたいと訪れた外国人グループ。海外旅行を計画中で、現地情報を聞きたい人。外国人とお話しをしてみたかった若者。日本語の勉強のためとベトナムの女性。来年子どもが高校に入るので、学校の情報をすこし知りたいと外国人のおかあさんなど。様々な思いでこのサロンに訪れています。なかには、市外から来られた熱心な方もいます。

そうした来場者へ、市の国際交流員やスタッフが対応します。ことばがうまく話せなくとも心配無用です。通じないと、すぐ隣りから助け舟が出てきます。ゆるくてあったかい雰囲気のなか、日本人と外国人が気軽に交流しながら、情報交換もできるスポットがこのサロンです。また、第3日曜日は英語、中国語の話せるスタッフが対応してくれるので、日本語が話せなくても大丈夫。はじめてでもOK、気軽に扉を開けてみましょう。

目指せ高校進学!!

～未来をつかむために～

青年の家　4.14

日本語ひろばジュニアで日本語を学んでいる外国にルーツをもつ子どもたちと、その親を対象に「高校進学セミナー」が開催されました。

「日本で生活していくためには、高校卒業の資格が大事です！だから勉強がんばって高校にいきましょう！」と話す代表の加藤さんの声に力が入ります。その気持ちに呼応するように、子どもたちやその親はどんどん真剣な表情に。自分たちの国とは違う日本の教育制度や学歴に対する考え方に、戸惑う様子も見受けられました。

また、高三のボランテ・マイケルくんやジュニアで勉強して今年高校に合格したエンリケ・ルイス・古賀くんが高校生活や将来の夢を発表しました。子どもたちは、頑張っている先輩を羨望のまなざしで見つめながら、勉強への意欲を新たに膨らませているようでした。

日本語ひろばジュニア代表　加藤玲子さんのお話

愛知県では日本語支援が必要な外国人の児童生徒数が日本で１位5623人（20年9月現在・文科省）ですが、その中で高校生は91人（７位）しかいません。外国籍児童は義務教育でないため、中学も卒業できない子もいます。一人でも多くの子どもたちに高校に進学して、さらに大学に行って自立して欲しいと思い、私たちは活動しています。

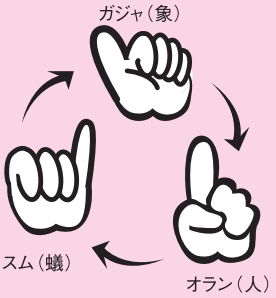
世界のあそびシリーズ　インドネシア編

日本でも昔からお手玉、凧揚げ、こま回しなどいろいろな遊びがありますが、世界にはどんな遊びがあるのでしょうか？
今回から数回シリーズで、世界のこどもの遊びを中心に紹介していきます。日本と同じような遊びがあってびっくりかも。
初回は研修で来たインドネシアの高校生に、自国でのこどもの遊びを２つ教えてもらったので紹介します。

Congklak（チョンカラ）インドネシアの伝統的な遊び

小さなくぼみに貝殻や、豆（以後くぼみの中に入る駒を石と表記）など入れて、２人で対面してゲームを楽しみます。器のそれぞれ右側のくぼみが、自分の陣地で、その中に全部の石が入り、より多くの石を移した方が勝つ単純ながら、なかなか面白いゲームです。専用の器があり、ないときは皿でOK.
勝負がつくまでに時間がかかり、こどもたちは時がたつのも忘れ、長い時間遊ぶ内に自然と数に親しめるそんな遊びです。

インドネシアのじゃんけん



象は人に勝ち、人は蟻に勝ち、蟻は象に勝つ。やり方は日本のじゃんけんと同じです。皆さんも、友達とやってみて！

インドネシアの高校生とチョンカラ

▲インドネシアの高校生が皿で代用し遊ぶ様子。
←詳しく知りたい人は、インターネットでCongklak（チョンカラ）の遊び方を、調べてくださいね。

「私のまちの国際交流」　　アソビックスびさい　6.3

一宮市には、協会以外にも国際交流を推進する目的で活動している団体があります。その中の一つ「一宮国際交流友の会」の交流事業を代表の佐野直道さんに紹介していただきました。

99人参加で、大ボーリング大会

地域の国際交流を盛り上げるために第一回国際交流ボウリング大会を開催。外国人39人と日本人39人が、3ゲームを団体戦・個人戦で戦いました。さらに応援団21人が加わり、声援でも盛り上がっていました。なにせ14カ国の参加で、ゲームの楽しみ方も多彩。向かい合うレーンに４カ国８人ずつ座り、小学3年生から60歳以上の方々まで、世代を超えて楽しみました。外国の人は20代30代が多く、日本語会話に問題がない人ばかりで、どのレーンでも日本語が花盛りでした。

日本語を習いに来た留学生には、生きた会話ができる良い機会と言っていました。中には、留学生から日本の高校生に英語で話しかける様子も。すると彼らが英語を話し始めるのを見て、これが小さな国際交流だと・・・・。

ゲーム終了後は会議室で表彰式。手作りケーキや写真立てなど、持ち寄りの賞品を渡しました。この大会中の笑顔を見ていると世界は一つです。

姉妹都市を目指して ～イタリア共和国トレビーゾ市を紹介します～

一宮市とイタリア共和国のトレビーゾ市は、本誌でもたびたび紹介してきたように、ファッションデザイナーを目指す優秀な学生との交流や今伊勢西小学校との小学校間の絵手紙交流などを続けています。

昨年からは、トレビーゾ市で行われた日本フェア、一宮市で実施したイタリアフェアでお互いの紹介ブースを開設するなど、両市の関係はさらに深まり、姉妹都市提携への進展が期待されています。

今、一宮市が一番身近に感じる海外都市、それがトレビーゾです。

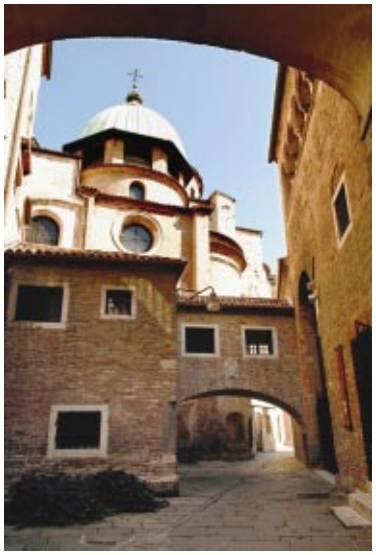
サン・ニコロ教会（13世紀:ロマネスク様式）

トレビーゾ市紹介　:ベネト州トレビーゾ県の県都であり、人口8万人、面積55km²。水の都ベネチアから30km北に位置しています。市内には運河が走り、古い城壁も残る街並みで、周辺にはスパークリングワイン(プロセッコ)のぶどう畑も多く、自然豊かで「水と芸術の町」と言われています。また、Benetton、Diadora、Lottoなど世界的にも有名なアパレルの会社もあり経済的にも豊かな街です。

市内を運河が流れる

特産品（野菜）ラディッキョ

ティラミス発祥の地


歴史ある街並み

トレビーゾで行われている日本フェアにおける一宮市紹介ブース

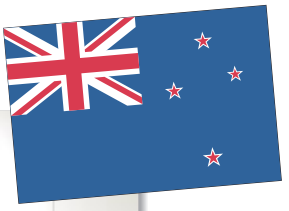
今年も開催決定!

イタリアフェア２０１２
～世界は友だち！ 東北復興の願いとともに～

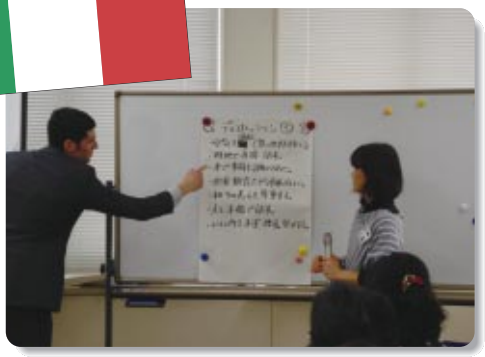
新しく出来る駅ビルと本町商店街を会場にイタリアをテーマにしたイベントを行います。
イタリア音楽のステージやスイーツ販売など楽しいイベントがいっぱい！ぜひ来てください！
とき：11月3日（土）・4日（日）
場所：i-ビル・本町商店街

ワイ・ワイ・エー

wai-wai-a フォトサロン

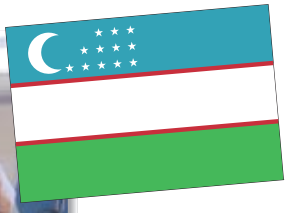


国際交流員のライダー・ジャックリーンさんによる『ニュージーランド理解セミナー』が行われました。ニュージーランドの社会や民族、習慣、行動に表されるアイデンティティについて流暢な日本語で説明してくれました。(3月10日)



イタリア人国際交流員スカラベッロ・グイドさんによる『国際理解セミナー』の様子です。テーマは「ステレオタイプからの脱却。」イメージに左右されない国際理解の在り方を教えてくれました。(3月3日)

木曽川東小ではウズベキスタンの名古屋大学留学生が自国を紹介する交流イベントを行いました。彼らがウズベキスタンの民族衣装を着て現れたとたん、子供たちからはたくさんの拍手喝采が沸き起こりました。(5月24日)



わが家の高2 三人娘

インドネシアからゲスト2人を迎えて

わが家にやってきたのは「21世紀東アジア青少年大交流計画」の「短期招へい事業」で来日したインドネシアの高校2年生FebbyとNina。東京で簡単な日本紹介プログラムを終えたあと愛知にやってきました。

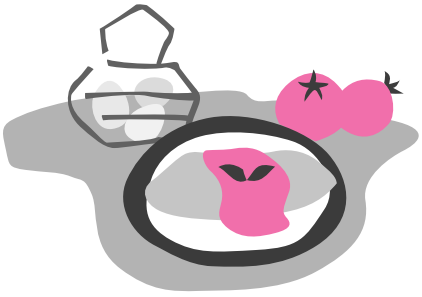
事前に知らされていたのは、娘と同じ年の2人はイスラム教徒で豚肉が食べられないということくらい。対面式で会ったとき、緊張した笑顔で挨拶をして、お互い片言の英語しかできないことがわかりました。

初めの食事の時、「ケチャップとソースとマヨネーズ、どれを使う？」と聞いたら不思議そうな顔をしました。1つずつ手に取りもう一度聞いたら、インドネシアではケチャップをソースと言い、ソースをケチャップと言うと説明してくれました。あまりの違いにみんなで大笑いをしたら急に会話が弾み始めました。

インドネシアの建国記念日式典で大統領の横で自分たちが国旗掲揚しているインターネットの動画サイトを誇らしげに見せてくれたり、ペットボトルの日本茶の画像を見せながら苦くて飲めなかったと渋い顔で教えてくれたり。その間、表情が百面相のようにくるくる変わり、どんな言葉より雄弁でした。それからの２日間もNinaの住む島では野生の猿が道端にいることや、インドネシアの制服は足が隠れるほど長いことなど、お互いの国の身近なことをたくさん話しました。

最終日のお別れの時、民族衣装姿で抱き合いながらポロポロと涙を流してくれました。かわいい娘が２人増えたようでとても幸せな３日間でした。

（伏原 一恵）



21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS Programme)とは

大規模な青少年交流を通じてアジアの強固な連帯にしっかりとした土台を与えるとの観点から、日本政府により実施される事業で、2007年から5年間、毎年6000人程度の青少年を日本に招へいし、相互理解と友好関係の促進を目的とした交流プログラムを実施するものです。

一宮市国際交流協会では、年数回イベント等にあわせてホームステイを実施しています。
今年度は７月27日～29日に七夕まつりホームステイ、8月17日～19日にウズベキスタン留学生の受け入れが予定されています。

親善ボランティアのホームステイグループに登録すると、この他にもホームステイ受け入れ機会があるときに随時協会からホストファミリー募集案内が送られます。興味のある方は協会事務局までお問い合わせください。

地球おっちこっち

一宮市在住の現代美術作家、松本幹永さんに、昨年招聘されて行かれたポーランドでのワークショップの様子を寄稿していただきました。

ポーランドでのワークショップに参加して

美術作家　　松本　幹永

私は去年7月、ポーランドで開催された『インター・ナショナルワークショップ　イン　マリアノヴァ』という美術の国際ワークショップに招聘され参加してきました。

これは12年前から毎年夏に開催されている活動で、ドイツ・ベルリンから車で3時間ほど離れたマリアノヴァというのどかな村に滞在し、3週間にわたって作品を制作しながら、ドイツ、ブラジル、ポーランド、日本から集まった他の参加アーティストと交流したり、自作の紹介をしたりして、最後に作品発表をするというものです。

私自身、ポーランドを訪れるのは初めてで、ポーランドという国に対しても、アンジェイ・ワイダ他の映画作家、“連帯”のワレサ議長、旧共産圏であること等、断片的なわずかばかりの知識しか持ち合わせていませんでした。が、実際、マリアノヴァに行って体験した３週間は、私に様々なことを気付かせてくれたように思います。

このワークショップは、地元の大学教授であり美術作家でもあるアンドレイ・トムチャック氏と

彼に賛同する地元の有志、中でもとりわけ宿舎・食堂として教会内の施設を提供してくださったヤン神父の情熱によって運営されていました。
こうした活動は、大概、公的な援助をうけて行われることが多いのですが、ここの場合は、宿舎、アトリエの提供、参加者の毎日の食事の世話などすべてが有志のボランティアによって賄われているのでした。彼らは、援助を受けずにすべて自前で運営していることをむしろ誇りにしている風さえありました。

自分が希望してアトリエとして使わせて頂いた

場所も、ミュレックさんという電設会社を経営されている方の別荘の中にある、今は使われていない粉ひき小屋(といっても３階建ての大きな建物)のペントハウスでした。優に築50年は過ぎており、普段人が住んでいないこともあり、それなりに汚れてはいるのですが、夏の間に手を入れたりして大切に使われている様子でした。

すぐ目の前には湖があり、大きな林檎の木や、馬２頭が暮らす牧場もありました。制作に疲れた時には、カヌーで湖に漕ぎだしたこともありました。マリアノヴァには、その環境に惹かれて避暑に訪れたり、近くに別荘を建てたりされる人が多いそうです。ただ日本と違い、別荘地といっても、みなさん、思い思いに質素にのんびりと過ごしているのです。

そういった環境に3週間暮らした私は、いやがうえにも「はたして豊かさとはいったいどういうことを指すのだろう？」という問いに思い至らずにはいられませんでした。ポーランドの人たちは、とても気さくで、ちょっとシャイで、ヴォッカなんかのお酒が好きで、飲みだすと本音が出てくるような、そんな日本人とよく似たメンタリティの人たちでした。

“日本”が信じた豊かさを追求していく中で、棄ててしまったり、見過ごしていったものがここにあるような気がした時、ヴォッカはいつも以上に身に沁みわたるのでした。

おとなりさん

私はフェルナンド・ガルシアです。４年前スペインのサラマンカから来ました。サラマンカは、古い大学のある学生の街です。今は日本人の奥さん、1歳の息子、彼女の両親と一緒に一宮に住んでいます。奥さんとは、彼女がサラマンカに留学している時に知り合い、結婚しました。

一宮は静かな街で、周りの人は優しく、住みやすい所です。第一安全です。町で、男の人がよくズボンの後ろポケットに、サイフを半分ぐらい出して歩いているのを見かけるけれど、スペインではありえません。すぐにサイフは無くなります。

また、文化の違いには、びっくりしています。たとえば、風呂は日本人なら40度ぐらいで入るけれど、スペインでは25度ぐらいのシャワーです。

食べ物は何でも食べますが納豆は苦手。食事の時、初めに料理を全部出すのは日本式で、スープ、サラダ、メイン料理と順番に出すのがスペイン式です。スペイン式はお母さんが忙しくて大変です。

スペインにも消費税はありますが、税率が物によって違います。基本の生活必需品、たとえば、食料品や薬は４％、交通費、新聞、飲食代などは8%、その他の宝石などぜいたく品は18%となっていて、合理的だと思います。

日本で困ったことは、漢字があまり読めないことです。駅名や、住所、地名などの漢字が難しいかな。ローマ字表記が、意外と少ないですね。

休みの日は、家族で近くの公園や、一宮タワーへ出かけます。とにかく今は、いろんな人と友達になりたいです。もし街で僕を見かけたら、どうぞ気軽に声をかけてください。

一宮市の紹介マップを作成しました!

多言語マップ（英・中・ポルトガル語）

一宮市観光ガイドマップ（中国語版）

国際交流協会では、公共施設や災害時における指定避難所を明記した多言語生活マップ（英・中・ポルトガル語対応）や一宮市の観光名所を案内する一宮観光ガイドマップ（中国語版）を作成しました。外国人の方が一宮を訪れる時や外国を訪れる時など「ふるさと一宮市」の紹介にご活用ください。当協会事務局（木曽川庁舎１F）と一宮市役所市民課外国人登録窓口（一宮庁舎１F）にて配布しています。

編集後記

この３月にイタリアに行ってきました。ちょうど『かけはし』で”世界の子どもの遊び”の特集を組もうという話があり、いい機会だからイタリアの子ども達がどんな遊びをしているのか見てきて欲しいと言われました。ドッコイ、イタリアに行ってみると子どもの姿がほとんど見当たりません。話を聞くとイタリアでも勉強が大変で遊んでいる暇はないとの事。それとも家の中でゲームでもしていたのかな？

雲谷斎

発行　2012年7月　編集　一宮市国際交流協会　〒493-8511　一宮市木曽川町内割田一の通り27番地　TEL0586-84-0014

この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材、編集されています。
ご意見・ご感想などありましたらお寄せください。電子メールiia-138@owari.ne.jpでもOK!